

令和2年度 中学校 2次集会レポート作成について

音楽部会中学校研究員

今年度は

「豊かな感性に ときめく心を

～互いに学び合い、高め合う、多様な学習活動のあり方～」

とし、研修を深めていきます。

音楽活動を通して「ときめく力」を「生きる力」につなげ、学びの質を高め、充実した音楽活動にしたいと考えています。生徒の豊かな感性や表現する心を育てていくこと、また生徒と教師の「ときめく力」を高める授業をみんなで研究できればと思います。

◆変更点

レポートに関しては昨年までと同様に、「市町村ごとに共通の課題で研究を進めていき、その研究の成果として1つのレポートにまとめ、レポート内容を学習会で発表、検証する」という方法にします。ですが、今までは実践交流・レポート交流と分けていましたが、「**分かりやすい形で自分たちの市町村の活動を伝える**」こととし、**ビデオ・模擬授業など形は問わないこととします。**

●市町村レポートの内容

1. レポートの教材は、①歌唱、②器楽、③創作のどの領域であってもかまいません。ですが、音や音楽、言葉などによるコミュニケーションを図りながら学習活動に取り組み課題を解決していく「多様な学習活動」のあり方を意識したレポートとして下さい。なお、今年度の石教研二次研究協議会で授業を行う市町村は（今年度は恵庭）はレポートの提出が免除となります。
2. 今年度のレポートも市町村ごとでの研究となります。市町村で行う研究授業の指導案だと一石二鳥かと思えます。
3. 石教研の二次研究協議会の午後の学習会の市町村ごと15分～20分程度でレポートの発表を行ってください。今年度からレポート・実践と区別することなく4つの市町村に分けての発表になります。（①千歳、②江別、③北広島、④石狩&当新）当日の発表内容は、できる限りわかりやすいよう授業のVTR、模擬授業、パワーポイントなど状況に合わせて発表して下さい。
4. レポート発表にあたり、市町村ごとに下記のような役割分担をしておくことと進めやすいかと思えます。4月の市町村部会交流会の時に決めておくの良いと思えます。
○授業者 ○レポートを書く人 ○当日に発表する人 ○ビデオなどの記録する人
○連絡調整係（推進委員）
5. レポートの内容は ①1年間の研究の流れ ②指導案 ③成果と課題 になりますが、発表の形式はVTRだけでなく、模擬授業なども可能です。楽しい発表になるようご協力ください。

.....
以上をふまえた上で、今年度の研究を進めていきます。ご不明な点があれば
中学校研究員 樽川中学校 中野までお願いします。

1 題材名 創作「言葉を音楽で表そう」

2 題材観

身の周りの言葉を旋律にすることからはじめ、言葉を文にしながさらさらに旋律をつくっていく。リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの動きによる特質や雰囲気を感じて、表現したいイメージになるように工夫しながら旋律の創作し、創作する中で音楽の用語や記号、音符などを理解させたい。また、生徒が音のつながり方や工夫した表現を試しながら旋律をつくっていくよう楽器などを用いて進めていきたい。

3 題材の目標

言葉の抑揚から自分のイメージに合う表現を工夫して旋律をつくる。

4 生徒の実態

5 題材の評価規準

	1 音楽への関心・意欲・態度	2 音楽表現の創意工夫	3 音楽表現の技能	4 鑑賞能力
題材の評価規準	言葉の特徴を生かして、旋律を表現していくことに主体的に取り組もうとしている。	表現したいイメージと音楽の形づくっている要素を関連させて、音楽表現の工夫をし、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	音楽の特徴を生かして、音楽表現を工夫するための技能を身につけて旋律をつくっている。	

5 指導計画と評価計画（3時間扱い）

	指導内容	1 音楽への関心・意欲・態度	2 音楽表現の創意工夫	3 音楽表現の技能
1	言葉の抑揚から簡単な旋律をつくる。	・言葉の抑揚を生かして、旋律に表すことに意欲的である。		
2 (本時)	自分のイメージに合った表現を工夫する。	・言葉から受けるイメージをもとに、表現を工夫することに意欲的である。	・表現が効果的になるように、要素の働きを自分の旋律に取り入れている。	
3	構成を工夫し曲としてまとめる。	・音楽をつくる楽しさと達成感を味わっている。	・よりよい表現にするために、構成や形式を工夫している。	・言葉の特徴を生かして、音や旋律を確認しながら創作することができる。

6 本時の目標

○自分のイメージに合った表現を工夫する。

